

# 平成 16 年 度 高等学校新入学生徒の学力に関する研究（国語）

本研究会では、愛知県国語教育研究会高等学校部会の協力を得て、毎年県内の参加希望の高等学校の新入学生徒を対象にした国語学力調査を実施し、結果の集計・分析・考察を行っている。

この報告書は、下記の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 調査問題の構成とねらい，科別・大問別・小問別正答率，群別正答率比較表など
- (3) 調査問題及び解答例，誤答分析，考察，指導上の留意点など

## 研究会委員

愛知県立昭和高等学校教諭	上野 裕章
愛知県立名古屋西高等学校教諭	大竹 聖基
愛知県立春日井西高等学校教諭	大澤美紀夫
愛知県立高蔵寺高等学校教諭	渡辺 英樹
愛知県立津島東高等学校教諭	酒井 規史
愛知県立五条高等学校教諭	小笠原正士
愛知県立横須賀高等学校教諭	田村 孝樹
愛知県立西尾高等学校教諭	鈴木 尚哉
愛知県立時習館高等学校教諭	藤井 聖美
愛知県立御津高等学校教諭	金子 雅宣
愛知県総合教育センター研究指導主事	小塩 卓哉（主務者）

## 目次

1 調査の趣旨	-----	( 2 )
2 調査の実施及び処理	-----	( 2 )
3 調査結果の概要	-----	( 3 )
4 分析結果の概要	-----	( 3 )
5 調査問題の構成及び正答率	-----	( 4 )
(1) 調査問題の構成とねらい		(2) 科別・大問別・小問別正答率
(3) 群別正答率比較表		
6 調査問題大問二及び解答例	-----	( 7 )
7 問題別応答分析と指導上の留意点	-----	( 8 )

大問一（論理的な文章），大問三（文学的な文章），大問四（古典）の調査問題及び解答例，問題別応答分析と指導上の留意点については、当センター研究紀要別冊，または、共同で研究を進めている愛知県国語教育研究会高等学校部会の冊子「高等学校新入学の学力に関する研究（国語）」をご高覧ください。

## 1 調査の趣旨

この調査は昭和30年以来、県内の国公立高等学校の新入学生徒を対象として名古屋地区国語研究会が中心となって実施してきたが、昭和40年度から当総合教育センターも事業に参加し、昭和45年度から正式に愛知県国語教育研究会高等学校部会と当総合教育センターとの共同研究調査として実施され、本年度に至っている。したがって、調査問題の作成、統計的処理、結果の考察については、すべて国語教育研究会と当総合教育センターの担当所員との共同作業によって進めてきたものである。

この調査の目的とするところは、次の資料を得ることにある。

- ア 中学校及び高等学校における国語教育に関する資料
- イ 中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
- ウ 全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力をとらえるための参考資料

## 2 調査の実施及び処理

### (1) 実施の時期及び処理

各校の合格者発表後、3月下旬から4月中旬までの間に、各校の実状に応じて適宜調査を実施した。問題用紙と解答用紙を併せてB4判3ページを用い、解答時間を50分とした。

### (2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった123校(2学科以上ある参加校はそれぞれの学科を1校とした)の26,621名について諸調査統計の処理をした。内訳は表1のとおりである。

(表1)

課 程	全 日 制				定 時 制	全 体
	普通科	商業科系	家庭科系	その他		
学 科						
学 校 数	97	8	11	7	0	123
生 徒 数	24,269	834	696	822	0	26,621

### (3) 統計上の調査事項

参加各校には次の事項について回答を求めた。

ア 個人別得点分布

イ 各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点

### (4) 小問別応答分析等(詳細分析10ページから26ページ)

普通科の5校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって、a群=上位100名、b群=中位100名、c群=下位100名に分け、答案に直接当たって応答分析を行った。

注 「群別正答率比較表」(6ページ)のA・B・C群は、(3)イの「各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点」を基に、上位をA群、平均点付近をB群、下位をC群とし、各280名程度(計840名程度)を調査対象としたものである。

### 3 調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて，その平均点・標準偏差を見たのが，次の表である。  
(表2)

科 別 人数 得点	普通科 24,269名		商業科系 834名		家庭科系 696名		その他 822名		全 体 26,621名	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	2,485	10.2	13	1.6	6	0.9	32	3.9	2,536	9.5
80～89	5,466	22.5	55	6.6	68	9.8	123	15.0	5,712	21.5
70～79	5,437	22.4	121	14.5	105	15.1	154	18.7	5,817	21.9
60～69	4,303	17.7	171	20.5	142	20.4	155	18.9	4,771	17.9
50～59	3,010	12.4	176	21.1	140	20.1	160	19.5	3,486	13.1
40～49	1,844	7.6	146	17.5	103	14.8	117	14.2	2,210	8.3
30～39	1,048	4.3	90	10.8	72	10.3	42	5.1	1,252	4.7
20～29	460	1.9	46	5.5	40	5.7	32	3.9	578	2.2
10～19	183	0.8	13	1.6	18	2.6	5	0.6	219	0.8
0～9	33	0.1	3	0.4	2	0.3	2	0.2	40	0.2
平均点	69.0		55.7		56.4		62.2		68.1	
標準偏差	17.9		17.5		18.3		17.8		18.2	

### 4 分析結果の概要

#### (1) 論理的な文章(大問[一])を読む力について

論理的な文章の論旨の理解度を直接問う問題は，小問二・四・六であるが，小問六の正答率が小問二・四よりも高いところを見ると，論旨の流れをとらえきれていない状況があるように思われる。小問四は五つの指示部分から，筆者が望ましいと考えているものを選ぶ問題であるが，「私」という存在と時間との関係性について理解が及ばないことで，正解に至らない場合が多かったのではないか。抽象的な文章から，自分にとっての具体的なイメージを把握していく力を，段階を追ってきちんと身に付けさせたい。

#### (2) 国語基礎力(大問[二])について

小問一ア・イでは，極端に正答率が低い生徒が目立った。すべて小学校で取り扱う語であるが，熟語となると理解に至らないことが分かる。小問二や三の正答率も決して高くないので，基礎的な語彙力を増やすような指導の工夫が必要である。

#### (3) 文学的な文章(大問[三])を読む力について

一昨年全群において低い正答率であった大問三であるが，昨年度に引き続き本年度も例年並の正答率を維持することができた。ただし，空欄に適語を補充することで登場人物の考え方を明らかにする小問二の正答率は，上位層と比較して下位層の正答率が明らかに低い傾向が出ている。小説の文脈を丹念に読み込むことのできない者が目立つ傾向にあると言える。小説を読み慣れていない生徒への今後の指導の在り方を検討したい。

#### (4) 古文(大問[四])を読む力について

中学校における古典の指導では，「易しい文語文や格言・故事成語，親しみやすい古典の文章など」が教材となっているが，大問四の正答率を見ると，新入学の段階で，大きな差のついていることがわかる。知識・理解の面でさらに差がつく前に，新入学生徒の実態をよく見極めた指導が必要だと言える。

## 5 調査問題の構成及び正答率

### (1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は、現代文2題（論理的な文章と文学的文章）、国語基礎力1題及び古典（古文）1題によって構成した。各小問のねらいや配点を表3に示す。

（表3）

大問	分野・領域	小問	小問のねらい	設問形態	小問数	配点
一	現代文 (論理的な文章)	一	接続詞・副詞の選択	選択 (2/6)	2	3×2
		二	文脈の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		三	指示内容の把握	選択 (1/5)	1	4×1
		四	筆者の主張の把握	選択 (1/5)	1	4×1
		五	段落構成の把握	選択 (1/5)	1	6×1
		六	文章全体の内容把握	選択 (1/5)	1	6×1
					<7>	計30点
二	国語基礎	一	漢字の読みと書き取り	記述	6	2×6
		二	同義的熟語の理解	選択 (1/5)	2	2×2
		三	形容詞の意味	選択 (1/5)	1	2×1
		四	慣用表現の意味	選択 (1/5)	1	2×1
					<10>	計20点
三	現代文 (文学的文章)	一	登場人物の会話内容の把握	選択 (1/5)	1	3×1
		二	登場人物の会話内容の補充	記述	1	3×1
		三	心情把握（会話部分）	選択 (1/5)	1	4×1
		四	登場人物の考え方の把握	選択 (1/5)	1	4×1
		五	心情把握（比喩表現）	選択 (1/5)	1	4×1
		六	小説の主題の把握	選択 (1/5)	1	6×1
		七	主人公の心理の把握	選択 (1/5)	1	6×1
					<7>	計30点
四	古典（古文）	一	同内容の語の抜き出し	記述	1	3×1
		二	文脈を踏まえた現代語訳	記述	1	3×1
		三	主語の把握	選択 (1/6)	1	3×1
		四	掛詞の把握	記述	1	3×1
		五	文脈に即した状況の理解	選択 (1/5)	1	3×1
		六	本文の主題の把握	選択 (1/5)	1	5×1
					<6>	計20点

## (2) 科別・大問別・小問別正答率

次の表4は、各校の、無作為に抽出された10%の生徒の得点を処理して、正答率を求めたものである。〔小計欄の正答率は、各小問の加重平均〕

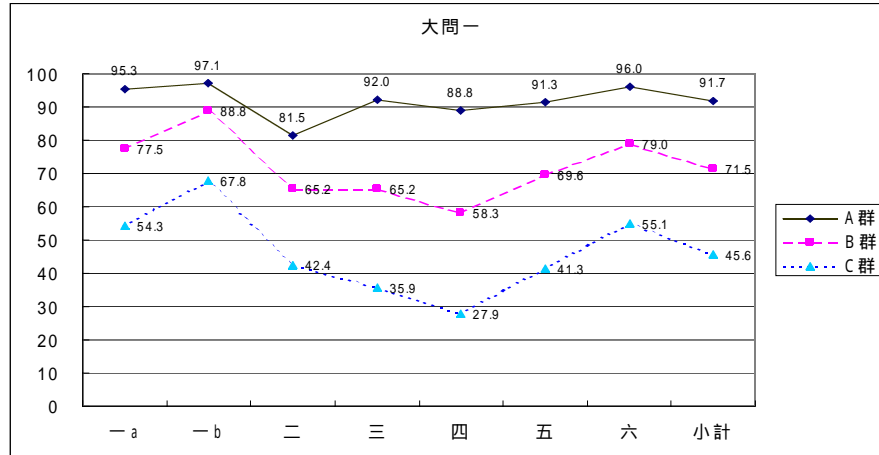
(表4)

大問	学 科		普 通 科	商 業 科 系	家 庭 科 系	工 業 ・ そ の 他	全 体	
	小 問	配 点	2,442人	86人	70人	83人	2,681人	
一	一	a	3	78.4	57.0	70.0	73.5	77.4
		b	3	88.0	78.0	82.9	81.9	87.3
	二	4	66.5	50.0	50.0	49.1	65.0	
	三	4	69.6	44.2	57.1	54.2	68.0	
	四	4	63.7	45.3	42.9	48.2	62.1	
	五	6	71.1	58.1	67.1	50.6	70.0	
	六	6	79.7	60.5	71.4	78.3	78.9	
小 計		30	73.4	55.8	63.0	61.5	72.2	
二	一	ア	2	26.4	9.3	11.4	19.3	25.3
		イ	2	17.4	3.5	10.0	2.4	16.3
		ウ	2	70.4	51.2	57.1	68.7	69.4
		エ	2	76.9	55.8	68.6	69.9	75.8
		オ	2	79.4	68.6	67.1	65.1	78.3
		カ	2	42.0	21.0	28.6	22.9	40.4
	二		2	40.3	38.4	38.6	42.2	40.3
			2	45.7	39.5	45.7	32.5	45.1
	三	2	34.5	44.2	30.0	32.5	34.6	
	四	2	62.9	46.5	57.1	59.0	62.1	
小 計		20	49.6	37.8	41.4	41.4	48.8	
三	一	3	78.6	69.8	68.6	79.5	78.1	
	二	3	78.5	66.3	67.1	68.7	77.5	
	三	4	85.5	79.1	87.1	80.7	85.2	
	四	4	95.4	87.2	87.1	97.6	95.0	
	五	4	76.2	64.0	75.7	73.5	75.8	
	六	6	75.6	58.1	70.0	71.1	74.7	
	七	6	61.6	46.5	47.1	62.7	60.8	
小 計		30	77.4	65.2	70.3	75.1	76.8	
四	一	3	81.6	69.8	74.3	73.5	80.8	
	二	3	61.6	34.9	52.9	53.0	60.3	
	三	3	59.3	45.3	51.4	53.0	58.4	
	四	3	79.8	62.8	64.3	66.3	78.4	
	五	3	74.5	54.7	67.1	60.2	73.3	
	六	5	67.4	58.1	51.4	55.4	66.3	
小 計		20	70.4	54.7	59.4	59.8	69.2	

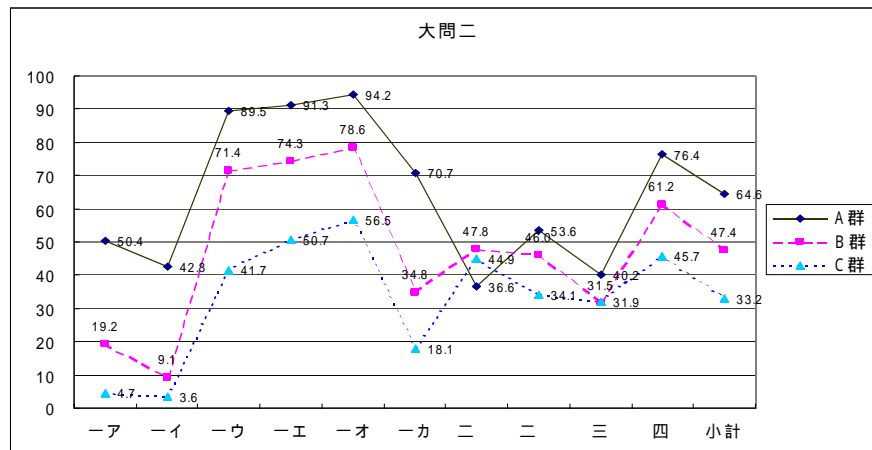
(3) 群別正答率比較表

テストの得点によりA・B・Cの3群を抽出し、設問ごとに正答状況を示したのが次の表5である。B群を平均点付近のグループとし、上位群A，下位群Cの各280名程度を調査対象とした。

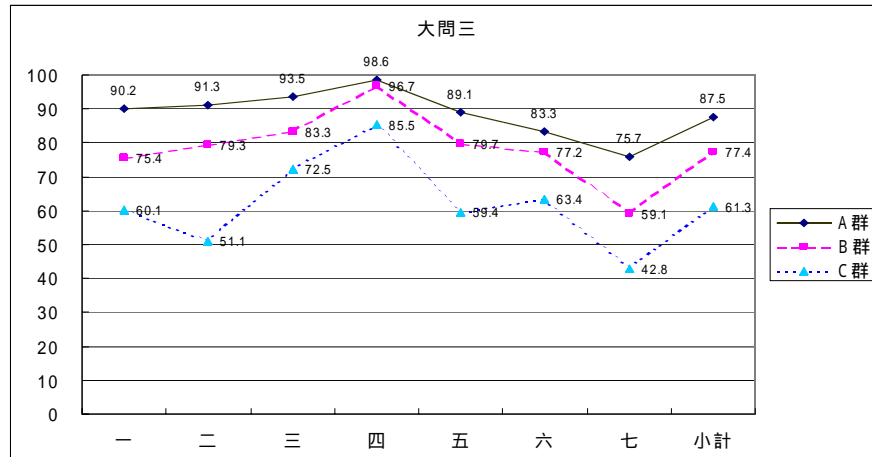
(表5 - 1)



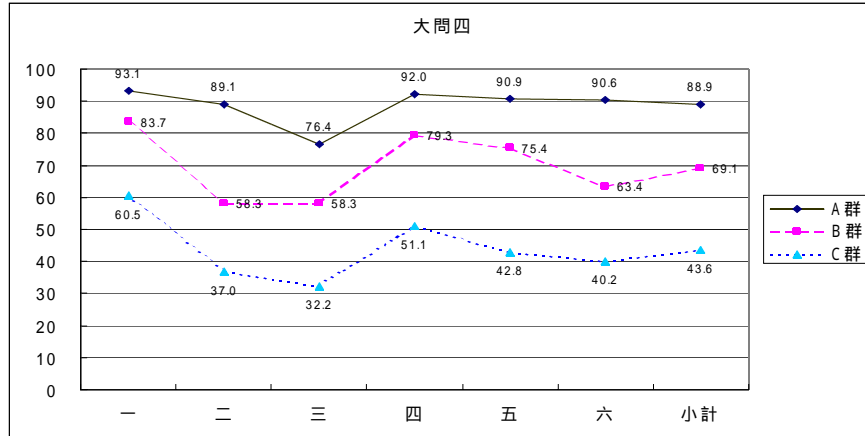
(表5 - 2)



(表5 - 3)



(表5 - 4)



## 6 調査問題大問二及び解答例

問一 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

- ア 彼はカッキテキな発見をした。
- イ 病がカイホウに向かう。
- ウ お金をアズける。
- エ 職務を遂行する。
- オ 春の息吹が感じられる。
- カ 流行が糜れる。

解 答	ア	画期的	イ	快 方	ウ	預(ける)
	エ	すいこう	オ	いぶき	カ	すた(れる)

問二 「見地」・ 「風紀」に最も近い意味を示す熟語を次から選び、かな符号で答えよ。

「見地」

ア 調査      イ 経験      ウ 区別      エ 観点      オ 目的

「風紀」

ア 流行      イ 規律      ウ 傾向      エ 厳格      オ 教訓

解 答		エ		イ
-----	--	---	--	---

問三 「いじらしい」という言葉の用例として、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 権力に執着するのはいじらしい。
- イ 先輩のアドバイスがいじらしい。
- ウ 懸命にがんばる姿がいじらしい。
- エ 店で待つ時間はいじらしい。
- オ 友人との出会いがいじらしい。

解 答	ウ
-----	---

問四 次の慣用表現とその意味の組合せのうち、不適当なものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 鬼の首をとる —— 強い上にさらに強さが加わること
- イ 一目置く —— 相手に敬意を表して一步譲ること
- ウ お茶を濁す —— いい加減にごまかすこと
- エ 脚光を浴びる —— 社会の注目の的となること
- オ さじを投げる —— 方法がなくてあきらめること

解 答	ア
-----	---

### 7 問題別応答分析と指導上の留意点

以下の表の a 群・ b 群・ c 群は、表 2 ( 3 ページ ) の全体の分布に基づいて抽出した 300 名 ( a 群 = 上位 100 名, b 群 = 中位 100 名, c 群 = 下位 100 名 ) の答案に直接当たって得たデータである。

このデータを詳細に分析することによって、各群の設問ごとの難易度と正答率の格差の傾向をつかむことができる。また、格差の様相は、問題の質とともに、生徒の国語学力の特性及び学習の習熟の様子を反映していると考えられる。そこでこの群別正答率のタイプを表 6 のように分類し、より生徒の実態に即した分析に努めた。

( 表 6 )

設問ごとの各群の格差・分散のタイプ		補 足
< a - b - c 型 >	a・b・c 各群が、ほぼ等間隔で差がつく型	正答率によって、それぞれのタイプに、「高位の」又は「低位の」を付ける場合もある。
< a - b c 型 >	a 群と、b・c 群との間隔がかなり大きい型	
< a b - c 型 >	a・b 群と、c 群との間隔がかなり大きい型	
< a b c 型 >	a・b・c 各群の間隔がほとんどない型	

### (2) 大問 [ 二 ] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

#### 問一ア

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
	正 答	画 期 的	52	22	9	83	27.7
	誤 答	活 気 的	22	25	36	83	27.7

問一ア	活 期 的	6	8	3	17	5.7
	活 機 的		4	2	6	2.0
	活 揮 的	3	1		4	1.3
	画 機 的		2	2	4	1.3
	画 気 的	2	1		3	1.0
	活 輝 的		3		3	1.0
	格 機 的		1	2	3	1.0
	( その他 )	8	17	20	45	15.0
	( 無 答 )	7	16	26	49	16.3

「カッキテキ（画期的）」の書き取りを答える問題である。「画」は小学校2年生で、「期」は小学校3年生で、「的」は小学校4年生で学ぶ漢字である。正答率は27.7%と低く、低位の<a - b c型>を示している。「画期的」という言葉を耳にしたことはあっても、その漢字は全く知らない生徒が相当数いたと思われ、それは無答の生徒が16.3%で、誤答の種類が32種類もあった点にも表れている。

「活氣的」と答えた生徒が正答者と同数いたが、「カッキ」という読みに思いつくまま「活気」を当てて多くは解答したのであろう。また「活」という漢字を用いた誤答が多数みられるのは、例文を活発に動いて発見したという意味に解釈し、「活」を用いると判断した生徒がいたことによるようだ。

#### 問一イ

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
問一イ	正 答	快 方	31	8	4	43	14.3
	誤 答	解 放	10	19	19	48	16.0
		介 抱	13	12	9	34	11.3
		開 放	2	8	11	21	7.0
		回 放	9	4	7	20	6.7
		快 放	2	2	2	6	2.0
		( その他 )	24	25	20	69	23.0
		( 無 答 )	9	22	28	59	19.7

「カイホウ（快方）」の書き取りを答える問題である。「快」は小学校5年生で、「方」は小学校2年生で学ぶ漢字である。正答率は14.3%と非常に低く、無答も19.7%と目立つ。誤答の種類も37種類あり、低位の<a - b c型>を示している。

誤答の「解放」は単に同音異義語の書き誤りだけではなく、病気が治って解き放たれると考えて解答した生徒もいたことが、事後調査から分かっている。同様に「病」という言葉からのイメージで「介抱」と答えたり、「カイホウ」を病気から回復する意と理解してはいるものの、「回復」の語にとらわれて「回」を用いるものと思い込んだりした生徒もみられた。いずれにせよ、同音異義語は意味の把握も含めて、しっかりと書き分けることができるように、時間をまとめてとって指導したい。

#### 問一ウ

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
	正 答	預 ける	79	61	53	193	64.3
	誤 答	ける	18	24	32	74	24.7
		頂 ける	1	3	4	8	2.7

問一ウ	貯 ける	1	5		6	2.0
	ける			2	2	0.6
	( その他 )	1	3	2	6	2.0
	( 無 答 )		4	7	11	3.7

(表中の は、「矛(ほこへん)」を「予」と錯誤した誤字、 は「貯」の「つくり」と「へん」が入れ代わった誤字。)

「アズ(預)ける」の書き取りを答える問題である。「預」は小学校5年生で学ぶ漢字である。正答率は64.3%で、高位の<a - b c型>を示している。

例文から「預金」という熟語を連想して正答を導くことができた生徒がいる一方で、逆に「貯金」を連想して間違えた生徒もいるようだ。また、「予」と「矛」の混同は「矛盾」「務め」などの書き取りでもみられるので、「矛」が「ほこへん」と呼ばれるという知識なども確実に生徒に押さえさせたい。

#### 問一エ

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%	H 7
問一エ	正 答	すいこう(遂行)	92	84	53	229	76.3	77.3
	誤 答	ついこう	6	14	37	57	19.0	16.7
		たいこう	1		2	3	1.0	1.7
		たいぎょう			2	2	0.6	0.7
		( その他 )	1	2	6	9	3.0	3.6

「遂行(スイコウ)」の読みを答える問題である。「遂」は中学校で学ぶ常用漢字で、「行」は小学校2年生で学ぶ漢字である。正答率は76.3%で、比較的よくできており、平成7年度の正答率77.3%とほぼ同じである。高位の<a b - c型>を示している。

「遂」を「スイ」と読むか「ツイ」と読むかで迷った生徒もいたろうが、正答者の多くは、「中学校で習ったが、その後何回か間違えたので覚えた」と事後調査で回答しており、本来間違えやすい読みを、継続的な学習活動を通して正しく読むことができるようになった好例と考えられる。

#### 問一オ

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
問一オ	正 答	いぶき(息吹)	100	90	60	250	83.3
	誤 答	といき		1	9	10	3.3
		そくすい		1	2	3	1.0
		そくふ		1	2	3	1.0
		( その他 )		3	14	17	5.7
		( 無 答 )		4	13	17	5.7

「息吹(いぶき)」の読みを答える問題である。「息」は小学校3年生で、「吹」は中学校で学ぶ漢字であるが、平成3年3月11日付文部省通知「学校教育における音訓の取扱いについて」の付表では、中学校で扱うものとされている。正答率は83.3%で、高位の<a b - c型>を示している。

a群の正答率100%を筆頭に、c群でも半数以上の生徒が正解している。事後調査では、「教科書や本(漫画を含む)で見た」「校歌や歌謡曲の歌詞にあった」「ハルノイブキという言葉はよく耳にする」などと多くの生徒が回答しており、生徒にとって生活に即した身近な言葉であったと考えられる。また、少数ながら「いきをふく」から「いぶき」という読みを導き出すことのできた生徒もいた。

問一カ

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
問一カ	正 答	すた(れる)(廃れる)	71	40	12	123	41.0
	誤 答	くず(れる)	10	9	11	30	10.0
		やぶ(れる)	4	8	11	23	7.7
		は(れる)	1	3	9	13	4.3
		おく(れる)		1	4	5	1.7
		はい(れる)	2		2	4	1.3
		はず(れる)		1	3	4	1.3
		(その他)	7	21	31	59	19.7
		(無答)	5	17	17	39	13.0

「廃(すた)れる」の読みを答える問題である。「廃」は中学校で学ぶ常用漢字であるが、正答率は41.0%と高くなく、無答も13.0%みられた。< a - b - c 型 > を示している。

正答者の中には、例文の「流行が」との組合せから「すたる」「すたれる」を結びつけ、解答できた生徒がみられる。逆に「廃」という漢字から「廃止」「廃墟」などの熟語をイメージして、「くずれる」「やぶれる」と考えた生徒も多い。「捨つ」が自動詞化した文語「廃る」が存在することを紹介するなど、漢字をイメージのみでとらえず、しっかりとした知識として身に付けさせる必要がある。

問二

小 問	正 誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合 計	%
問二	正 答	工 観 点	43	47	46	136	45.3
	誤 答	ア 調 査	52	41	32	126	41.7
		イ 経 験	4	8	7	19	6.3
		オ 目 的	1	3	9	13	4.3
		ウ 区 別		1	6	7	2.3
		イ 規 律	71	39	19	129	43.0
	誤 答	ウ 傾 向	11	34	32	77	25.7
		ア 流 行	14	19	31	64	21.3
		オ 教 訓	4	6	14	24	8.0
		工 厳 格		2	4	6	2.0

問二 は、「見地」の類義語を選ぶ問題である。正答率は45.3%で< a b c 型 > を示しているが、a群の正答数がb群、c群を下回っている。事後調査によると、正答を選んだ生徒は「見地は見る地点、観点も観る地点で同じだと思った」のように、「見」と「観」の意味の類似性から選んだり、「上の漢字が下の漢字を修飾している」と考えたりしている。一方、最も多かった誤答のア「調査」を選んだ生徒は、「地を見る＝調査」のように、「地」を「見る」の目的語と解釈して、「ある土地へ調査に行くことだと思った」と考えたり、一部ではあるが「検地」と誤解したりしている。「見地」の意味を知らなかった生徒は多数いたようだが、言葉自体からその意味を推測しようとした場合、a群の生徒はb群c群に比べて熟語をより構造的に把握する力があるだけに、かえって誤答のア「調査」を選んでしまう場合も多かったようである。

問二 は、「風紀」の類義語を選ぶ問題である。正答率は43.0%で、< a - b - c 型 > を示している。事後調査によると、正答を選んだ生徒の多くは、「風紀委員」や「風紀を乱す」等の表現を挙げ

て何らかの形で意味を把握していたと答えている。一方、誤答としては「紀」には注目せず、「風」一字にとらわれたものが目立つ。具体的には、「風という字があるから風が行く方向」と考えてウ「傾向」を選んだり、「風によって世紀と共にやってくる」「風のようにすぐ過ぎ去る」と考えてア「流行」を選んだりした生徒がみられた。

### 問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正 答	ウ 懸命にがんばる姿がいじらしい。	53	29	22	104	34.7
	誤 答	ア 権力に執着するのはいじらしい。	22	34	34	90	30.0
		エ 店で待つ時間はいじらしい。	21	31	37	89	29.7
		イ 先輩のアドバイスがいじらしい。	3	4	5	12	4.0
		オ 友人との出会いがいじらしい。	1	2	1	4	1.3
		( 無 答 )				1	1

問三は、「いじらしい」の用例を答える問題である。正答率は34.7%で、< a - b c 型 > を示している。事後調査で「いじらしい」の意味をどの程度理解しているか調べたところ、「いじきたないこと」「いらいらすること」と回答した生徒が多く、このように誤解した結果、アやエの選択肢を選んだものと思われる。また、消去法から正答を選んだ生徒も多く、意味を正確に把握した上での正答率はより低いと考えられる。「いじらしい」という感覚は、自分よりも弱い者・幼い者に対して感じるものであり、中学生には実生活でこの言葉を使う場面はまだ乏しいと思われる。しかし、言葉の習得を通して、生徒達の感性を養う上でもこのような語の感覚は大切にしたいものである。

### 問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正 答	ア 鬼の首を取る 強い上にさらに強さが加わる こと	82	63	43	188	62.7
	誤 答	イ 一目を置く 相手に敬意を表して一步譲る こと	13	17	22	52	17.3
		オ さじを投げる 方法がなくてあきらめること	2	11	16	29	9.7
		ウ お茶を濁す いい加減にごまかすこと	4	5	10	19	6.3
		エ 脚光を浴びる 社会の注目の的になること		3	8	11	3.7
		( 無 答 )			1	1	2

問四は、慣用表現とその意味の組合せのうち、不適当なものを答える問題である。正答率は62.7%で、< a - b - c 型 > を示している。

選択肢に挙げられた慣用表現は、どれも生徒が意味を理解しているだけでなく、日常的にもある程度は使っていることが事後調査から分かった。そのためアの選択肢の意味の組合せが何となくおかしいとすぐに感じた者が多かった。最初は「鬼に金棒」と混同する者がいると予想したが、そのような間違いをした者はあまりいなかった。

< 指導上の留意点 >

実態及び問題点	対応策
<p>漢字の意味を正しく理解した上で、熟語を表記できない。</p>	<p>用いられている漢字の意味を正確に把握してこそ、熟語の意味も理解することができる。意味上、関連の深い語には、同じ漢字が用いられる場合が多いので、今回正答率の低かった「快方」や「画期的」を例として、語意の把握に重点を置いた指導の方法を考えてみた。</p> <p>「快方」の指導例</p> <p>1 次を示す語の( )に入る漢字は何かを考えさせる。 ア 怪我が( )癒する      イ 病が( )方に向かう      ウ ( )眠</p> <p>2 ア～ウの例から( )に入る漢字が持っている意味を考えさせる。</p> <p>3 その結果をもとにア～ウの語意をとらえ直し、同じ意味の( )を用いた他の例語を考えさせる。 【例】「病気が全快する」「快気祝い」など。</p> <p>「画期的」の指導例...語意の説明をもとに、漢字の書き取りをさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>彼の<u>カッキ</u>的な発見をした。 ← 彼の新発見によって、それまでとは全く違った著しい                  進歩・飛躍がもたらされたのであり、その意味で時代に                  一線を画した(線を引いて他との境を明らかにする)。</p> </div>
<p>和語の理解が不十分である。</p>	<p>言葉は単に知識として知っているだけではなく、日常生活において使うことができるようになって初めて習得したと言える。そのためには未知の言葉と出会ったとき、辞書で意味を調べるだけではなく、その言葉が表す意味をより実感させる工夫をして理解を深めさせる必要がある。そこで生徒が不得手としている、感情を伴った和語の理解を促す指導の方法を考えてみた。</p> <p>1 次を示す5つの言葉の意味を辞書で調べさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>ア いじらしい    イ いきどおる    ウ おぼつかない                  エ うしろめたい    オ いとおしい</p> </div> <p>2 この言葉が表す感情は何かを考え、レーダーチャート状の図にポイントを打たせる(グループワークも可)。</p> <p>3 その結果を相互に交換させたり、全体に発表させたりしてまとめる。</p> <p>4 ア～オの言葉を使った短作文を書かせる。</p> <p>5 生徒が書いた短作文を、ア～オの言葉の部分为空欄にした状態でプリント化し、他の生徒に補充させるといった問題演習形式でさらに学習させる。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>